

白虐史観克服と台湾修学旅行

森^{もり}靖喜^{やすき} ● 理事
森教育学園理事長



平成十四年十一月十九日、産経新聞に李登輝元総統の「日本人の精神」が掲載された。慶応大学三田祭で講演を依頼された李登輝閣下に、あろうことか日本外務省はビザを出さず、講演は幻となった。そのような経緯から、ならばと産経が講演の全文を紙上掲載したのである。

大正九年から十年の歳月をかけて烏山頭^{うざんとう}ダムを完成させ、台湾では「神さま」と慕われ、銅像やご夫妻の墓が造られ、台湾で最も愛されている日本人「八田^{はつた}與^{よいち}二」(一八八六一—一九四二年)の業績を紹介し、清明・誠実な日本精神のすばらしさを訴えたものであった。ダムと灌漑用水路(二四〇〇〇km² 〓 万里の長城の四倍)により、洪水・干害・塩害・風土病の荒地であった嘉南^{かなん}平野(香川県と同じぐらいの面積)が穀

倉地帯に変身したのである。戦前の日本のすばらしい歴史が台湾にある。私には衝撃的な内容であった。

烏山頭ダムだけでなく、台湾には多くの日本人の業績がある。この史実を学園の教育に取り入れれば、戦後日本を支配している「白虐史観」を克服できる、と確信したのである。

中国の文化大革命の最中、朝日新聞などが「すばらしい革命」が進行していると賞賛する中で、真実は毛沢東による劉少奇追放の凄惨な権力闘争だ、と書く産経新聞を中国は昭和四十二年に北京から追放。産経以外の日本のマスコミはどこも北京政府に阿り、台湾には記者を送り込まないばかりか、台湾のことを記事にすることはほとんどなかった。以後、反米親中の風

潮と台湾無視は現在も続いている。従って、李登輝閣下のすばらしさを知る日本人は残念ながら少数である。

そのような言語空間の中で、産経新聞社の主宰で実施された第一回「李登輝学校」に私も参加し、以後数回「李登輝学校」に参加、閣下の講義を受け卒業証書もいただいた。本学園の社会科教師を何回かに分けて「李登輝学校」に参加させ、ようやく平成二十三年より生徒の修学旅行としての訪台が実現した。

二回目の今年の三月は、生徒に加えて保護者も参加、日本李登輝友の会事務局のお世話により、李登輝先生に講演していただくことができた。「武士道はすばらしい、日本精神を持つ日本はアジアのリーダーになるべきだ」という講演に生徒は感激し、保護者もすっかり李登輝ファンに。大成功でした。

李登輝閣下の「講演とともに、「日経アジア賞」を受賞された、奇美実業創業者の許文龍会長の講演と、氏が社員研修用に書かれた『台湾の歴史』も衝撃的であった。「日本人は台湾を侵

略したと悪く言うが、日本の統治を受けた台湾人が、日本の統治はすばらしいと言っているのに、なぜ日本を貶めるのか」「台湾も朝鮮も近代化の基礎は日本が造った」、故に日本人はもっと胸を脹れと、自虐史観に覆われ自信喪失した日本人に警鐘を鳴らしておられる。

このたび、奇美の許瑤華・東京事務所代表のご尽力により、台湾の近代化に大きな功績を残した新渡戸稲造博士の胸像を寄贈してくださることになつた。学園の玄関前に設置する予定である。訪台のたびに歓待してくださる蔡焜燦氏とともに、心より御礼を申し上げたい。

終わりに、高雄市の隣、屏東市の私立屏東高級中学（高校に相当）と姉妹縁組を結び、相互交流が始まった。昨年は本学園が訪問し、この五月は屏東の校長以下三十数名が来校、交流を深めている。日台は運命共同体であり、「侵略国家日本」を覆す歴史が、欧米の植民地政策とは異なる歴史が台湾にはたくさんあることを知ってほしいものである。今後両国の絆をしっかりと築いていく覚悟です。